

令和4年度 総合型選抜

試験問題

令和3年11月20日

9時00分 — 11時00分

地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科志願者

造形実技

〔注意〕

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 試験開始後、問題冊子に落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、申し出ること。
3. 解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚ある。
解答用紙および下書き用紙の受験番号欄に「受験番号」を記入すること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の位置に記入すること。
第1問は解答用紙（その1）に、
第2問は解答用紙（その2）に解答すること。
5. 黒鉛筆、色鉛筆および消しゴムは貸与のものを使用すること。
6. 貸与された黒鉛筆、色鉛筆および消しゴムは持ち帰らないこと。

第1問

一辺12mの立方体がある。この立方体は、立体Aと立体Bが、図1～図6に示すように、互いに隙間なく組み合わさったものである。この立体Aと立体Bの形を、下記の条件にしたがって、解答用紙に示された立方体を補助線として描きなさい。なお、正答は一つとは限らない。

条 件

- ① 立体Aと立体Bは、別々に描くこと。その際、図1～図6および解答用紙の立方体に示されたP点を基準とすること。
- ② 見えない部分は破線で描くこと。
- ③ 定規、コンパスの類は用いず、黒鉛筆で描くこと。
- ④ 手元にある紙を、切ったり折ったりして立体を作らないこと。

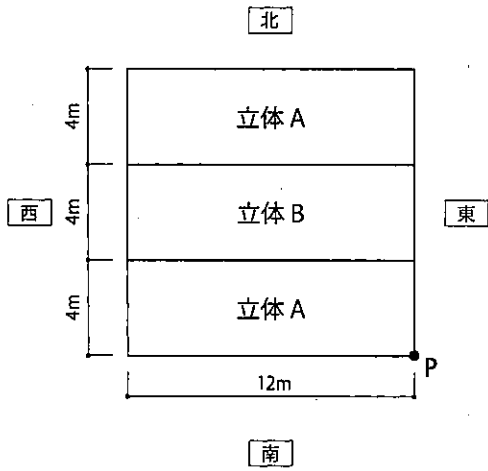


図 1 上から見た図

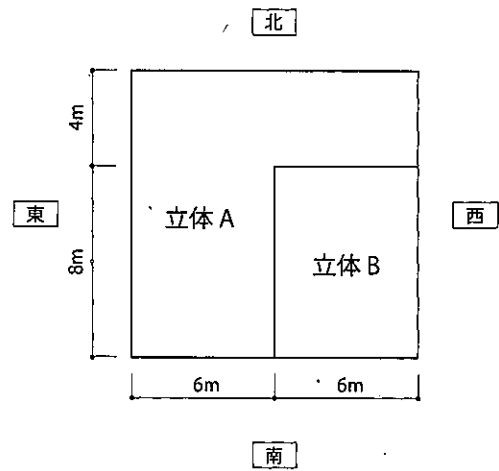


図 2 下から見た図

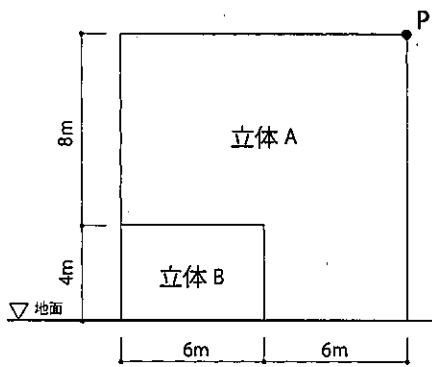


図 3 南から見た図

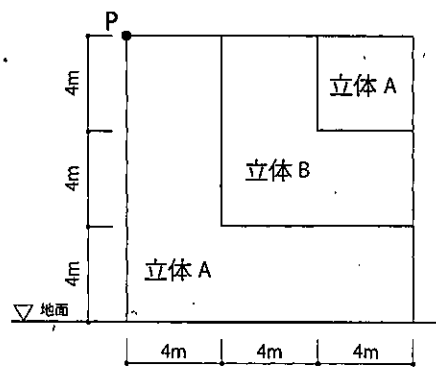


図 4 東から見た図

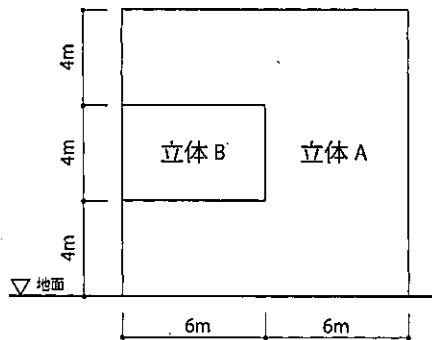


図 5 北から見た図

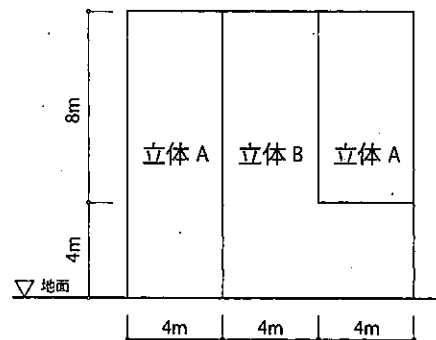


図 6 西から見た図

第2問

近年、河川の氾濫による住宅の浸水が多く発生している。ハザードマップ等により浸水リスクが大きいことが分かっているにもかかわらず、さまざまな理由から、浸水リスクの小さい地域へ転居できないことも多い。そこで、住宅の床上浸水が想定される地域において、浸水による被害が軽減されるような住宅を構想して、その様子を解答用紙いっばいに描きなさい。なお、以下の①～⑧の条件を満たすように描くこととする。

条 件

- ① 戸建て住宅およびその戸建て住宅に接した道路を描くこと。想定される最大の浸水深さは、道路面から1mとする。これら以外の要素は自由に設定し、描き入れてよい。
- ② 自身の構想が説明できるように、透視図、断面図、平面図などの複数の図を描くとよい。屋外と屋内のいずれか、あるいは両方を描いて良い。ただし、すべての図で同一の住宅を対象とすること。
- ③ おおまかな寸法を描き入れること。
- ④ 敷地の地盤面および想定される最大の浸水深さを、図中に文字および矢印で指し示すこと。
- ⑤ 成人男性、子供、車いすに乗った成人女性それぞれ1名以上を描くこと。
- ⑥ 浸水による被害を軽減するために配慮した事項を文章で説明すること。説明が図のどの部分と対応するか矢印で指し示すこと。
- ⑦ 上記の⑥で構想した被害軽減のための配慮によって、住民や通行人などに不都合が生じる可能性について検討し、文章で説明すること。
- ⑧ 定規、コンパスの類は使用せず、色鉛筆で着彩すること。